

はばたき

NO.16



1984.7

神戸市立王子動物園

珍獣・奇獣騒動に一言

コアラ誘致についての熱いラブコールが海の向うのオーストラリアに送られて久しいが、今秋には“輸入問題”と“友の会”結成というおみやげ付きで来日することが本決りとなり、まずはメダタシメダタシで関係者は胸をなで下したことでしよう。しかし、最近になって突如として同じオーストラリアの荒野に住む“エリマキトカゲ”がガ然人気になった、某自動車メーカのテレビコマーシャルに登場するや老いも若きも熱狂し、また抜目のない商業ベースに引き込む業種多様でまことに浅ましい限りである。舌骨に直結したエリマキを最大限に広げ、黄色い口を精一杯開き後あしで走るさまが受けているようだが、彼らにとっては繁殖期に行う求愛行動にはこの姿で互に刺激し合い、子孫繁栄につながるが、フィルム撮影のため苦手なへびをけしかけられて長時間不自然な姿勢を強制させられており、このことは精神的肉体的にも非常な苦痛を強要しており残酷の極である。

ましてや、オーストラリア国内でも飼育下に置くのは難しいとされているのに、違法にも隣国から輸入してデパートの客寄せに使うとは言語道断である。

王子動物園でも珍しい動物を入れたらとの話が度々あります。しかし、話題になるような動物はその生存地においてすら、年々その数を減じつつあり早急な保護対策が必要であるものが多く、シフゾウ（四不像）のように自然界においてはすでに絶滅し、ただ、動物園の飼育下のみでその種の保存が図られているものもあるが、これは例外中の事例であって、パンダ保護作戦のように、野生動物はその生存地において保護するのが最善の策である。

来年開催される花と緑の博覧会「コウベグリーンエキスポ85」に天津市のご好意により中国から未だ国外不出であった珍獣の「金絲猴」が出展されることになり関係者一同喜んでおります、孫悟空のモデルとも言われており、金色の美しい猿で中国ではパンダと同じ国家管理第一級の動物であり、天津市の非常な努力と中国政府指導者の方々の理解によって実現したもので、このような貴重な動物ですので万全の受入態勢を整えねばなりません、

中国が国外出展をはじめて認められた理由としては、当園がパンダ飼育に成功した技術、さらに昭和55年天津市からの友好動物で贈られた「黒葉猿」の飼育を高く評価して載いた結果と考えております。また、この出展の期間を通じて更に両園の技術交流を深めると共に、動物による両市の友好の輪を拡げてゆきたいと考えております。

珍らしい動物の飼育は動物園技術者の限らない夢でもあります、しかし、いたずらに珍希なものを追い求めることは厳に戒められるものであります。永年にわたって動物園で飼育され、多くの人々から愛され親しまれて来た動物たちこそ、本当に珍獣以上の役割を果たした功労者であり、人々の心の中で何時までも生きながらえるであらう。……ザーク君、神ちゃん……有難う……

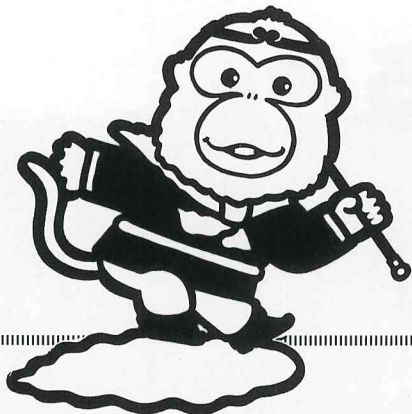
神戸市立王子動物園長 福岡 順三

も く じ

◆珍獣・奇獣騒動に一言……………	2
◆“金絲猴”が来年神戸にやってくる……………	3
◆動物園おもしろ行動学……………	4
◆動物もの知り手帳……目のお話し……………	7
◆動物のあそび……カラーグラビア……………	8
◆飼育うらばなし	
●見せたアルマジロの巣作り……………	10
●コウノトリの営巣……………	11
◆動物育児日記	
●ロバの赤ちゃん誕生……………	12
●フラミンゴのひな、ぞくぞく誕生……………	13
◆動物なぜなぜ問答	
●アシカの赤ちゃんが泳げないのはほんと？	
●なんでウンコはくさいねん？……………	
◆トビツクス……………	15

表紙写真

フラミンゴのひな（撮影 福田元二）



キン シ コウ
金 絲 猴 が 来 年

神戸にやってくる!

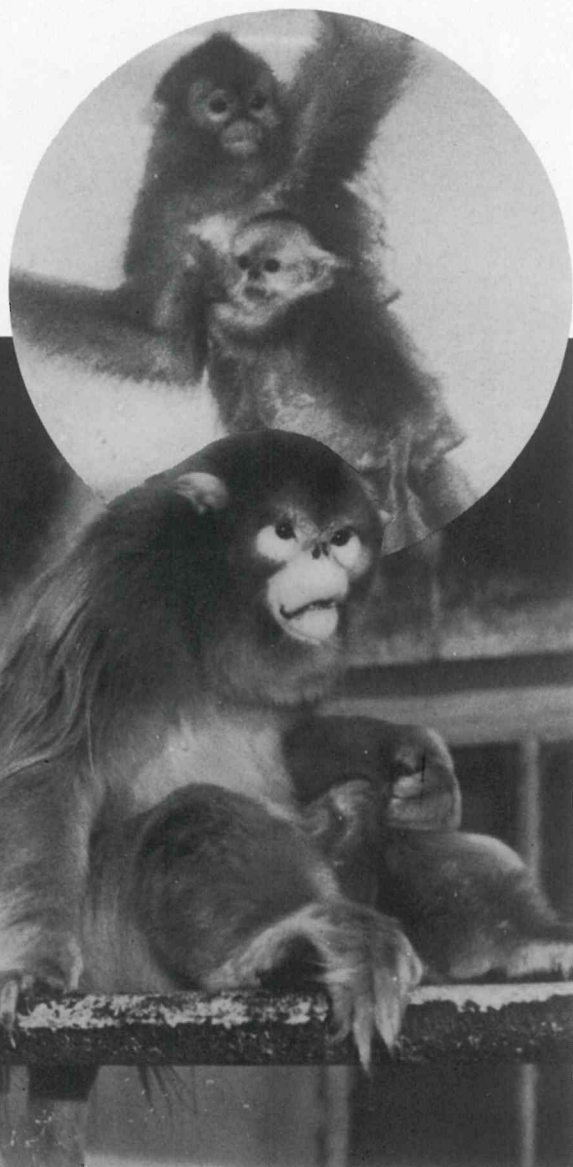
来年の8月に神戸でユニバシアード（学生のオリンピック）が開かれますが、この大会をはさんで7月21日から11月4日まで神戸総合運動公園で花と緑の博覧会グリーン・エキスポ・コーベ85が開催されます。この博覧会に、パンダと並ぶ珍しい猿の「金絲猴」が中国の天津動物園から来ることになりました。

この金絲猴は、金色の長い毛でおおわれ、顔は口のまわりがふくれて突き出ており、目のまわりは青く、鼻の穴は上を向いています。中国では「孫悟空」のモデルになった猿といわれ今まで中国から外国へ出たことのないほど珍しい動物です。

今年2月に宮崎・神戸市長から天津市長にこの金絲猴の貸し出しをお願いしていましたところ、中国政府や天津市のご理解により、神戸に来ることが決ったもので、博覧会が開いている約100日余りの間、公開されることになっています。

来年来る金絲猴はオスは14才で名前は「金金（チンチン）」メスは7才で「菲菲（フェイフェイ）」といいます。この2頭は会場内のウッドランド・ゾーンという木々の多い森で飼われますが、ここには「まきば広場」や「フライングケージ、小動物コーナーなども計画され、楽しい広場となりそうです。

金絲猴を中国以外で展示するのは世界で初めてのことです。



◀ 菲菲と子供

◀ 金 金

ポートピアの時のパンダ、ロンロンとサイサイと同じように人気者になると思います。なお、飼育管理は王子動物園が一手に引き受けることになっております。（谷岡 正之）

動物園おもしろ行動学



▲動物園の動物をじっくり見ているとさまざまなおもしろい行動に出会うことがあります。

動物園に来てめずらしい動物を見て楽しみ、お弁当を食べて遊園地で遊べば一日もあつと言う間にたっってしまう。

なかにはお弁当や遊園地だけが楽しみで動物園に来る人もいるかもしれない。実は私の子供の頃がそうでした。

でもせっかく野生動物が身近に見られる動物園なのですから、動物の前をす通りしてジェットコースターや観覧車へ走ってゆくのはもったいないなと思うのです。すごくおもしろいものを見落しているかもしれません。

これからお話しするのは「すごくおもしろいもの」のほんの一部です。もっと多くのおもしろいものは、動物をじいっと見つめていれば自分で発見できると思います。

比較行動学とか比較心理学という学問分野があります。何かむつかしそうですが、ようするに動物と人間の行動を比べてみてどこか似ているところはないか、それはどうしてなのかということの研究する学問なのです。もちろん複雑な社会で生きる人間を単純に動物と比較するわけにはゆきません。でもいくら人間とはいえ進化の道すじを7000万年ほどさかのぼれば、モグラやネズミの仲間にとどつくのです。私達の心のどこかにそんな動物達のなごりがあるかもしれない。私達の体の中にある尾骨がサルの子の尾のなごりであるように。

さてこの比較行動や心理を動物園で見てもよいというのが本題です。動物の動きと自分（人間）の心の中をじっくり観察してみましょう。

カモメがならんだ。

動物園だけではなく港でも見られますが、何羽かが翼を休めてものに止まっている様子を見て下さい。ほとんど等間隔に間をあけていないでしょうか。これは個体距離とよばれ、カモメたちが互いに他との距離をあけることで自分の世界を守ろうとしているのだと説明されます。

こんな光景を見て気づくことはありませんか。

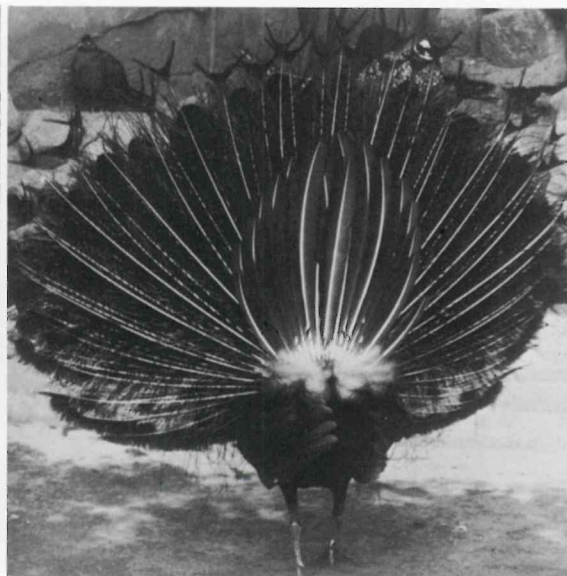
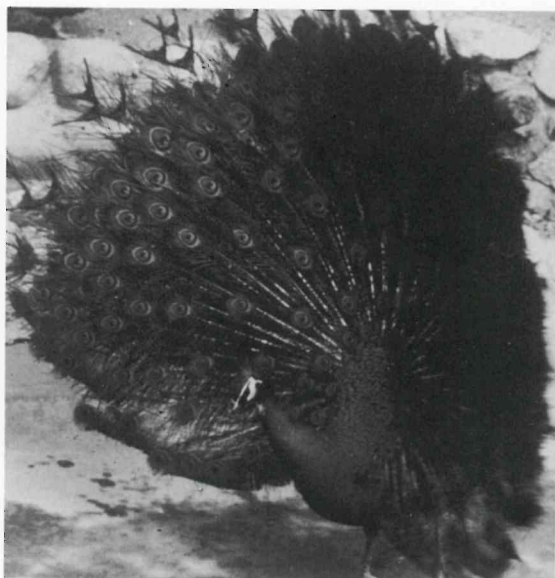


わりあい空いた電車の横長イスに坐っている人間のようすに似ているでしょう。まず両端に、そして次は真中という具合にできるだけ間をあけるようにしているのです。無意識にそうなるのですが、比較行動を研究する時この無意識の動きが最も大切な観察点になります。なぜなら動物と同じ心理がこの無意識の中にあると思われるからです。

フジャクがひらいた。

春になると美しい背の羽をひろげてお客さんを喜ばせているこの鳥ですが、べつに人間のために広げているわけではありません。雌に向っ

て結婚の申し込みをしているのです。「それぐらい知ってるわ。」と言われそうですが、では雄が同性に対しても羽を広げるということをご存知でしょうか。これは雌に対する愛情表現と



▲フジャクが羽を広げるのは求愛の意味のほか威嚇の意味もある。

は全く反対のおどしの表現なのです。多くの動物ではこのように攻撃の動作と求愛の動作がひじょうに似ている場合があります。トゲウオという魚の求愛行動は、攻撃したいという気持ちを抑制することで成り立っているそうです。人間の世界でも愛と憎しみは裏腹だとよく言われますが、動物ではそれがはっきりと表われるのです。



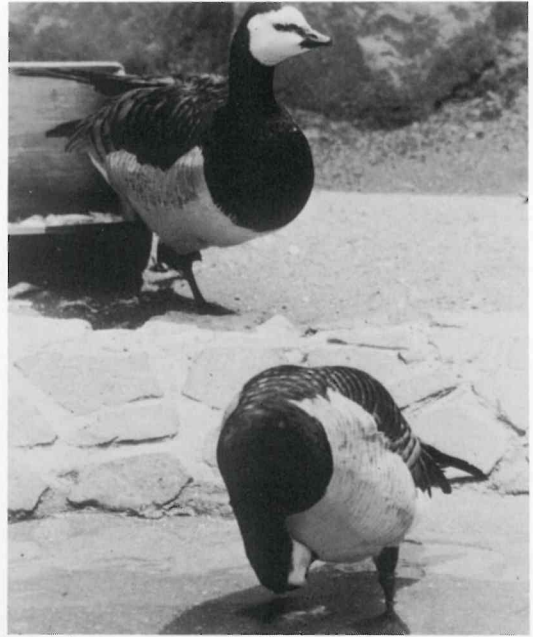
▲ゴリラの胸をたたくドラミングもよく知られた威かく動作のひとつです。

カモがいじけた。

よく抑制のきかない人に対して「まるで動物のようだ」というたとえが使われます。しかしこれは動物にとってはとても失礼なことなのです。野生の中で動物は自分の死につながるような無駄な闘いや争いを避けるため、様々な方法を持っています。最良の方法は逃げることです。しかし、逃げたくても逃げられない状況で闘いたくもない、という葛藤の中にある時、動物はおもしろい行動を示します。カモなどは急に羽づくろいを始めますし、シカは食べる振りをすることでそんな気持ちをごまかそうとするのです。

私達人間の場合も精神的に行き結まった時、無意識に髪の毛を手でとかしたり瓜を咬んだりしますが、なんとなく似ていると思いませんか。

こういう行動は転位行動と呼ばれていて、動物園でもよく見られます。知らないうちにやっ



▲羽づくろいというごく普通の動作の中にも様々な意味が含まれていることがあります。



▲瓜をかんだり、髪に手をやったりする無意識の行動は動物の転位行動に類似しています。

ている自分の動作と比べてみてはどうでしょうか。

動物のおもしろい行動をいくつか書きましたが、もっと多くの研究が現在も続けられています。それに関する図書も出ているので、もっと詳しく知りたいなという人のためにそのうちの何冊かを終りに書いておきます。

余談ですが、3年後にいよいよ「動物科学資料館」がオープンします。そこにはこの話に関りのある様々な展示があり、資料を調べる図書室もあります。どうぞ楽しみにして待っていて下さいね。

(村田 浩一)

動物とヒトの行動に関する本

ソロモンの指環／コンラート・ローレンツ 〈早川書房〉
本能の研究／ニコ・ティンバーゲン 〈三共出版〉
比較行動学／アイブル・アイベスフェルト 〈三共出版〉
マンウォッチング／デズモンド・モリス 〈小学館〉
動物行動学入門／A・マニング 〈培風館〉

動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～

目のお話(その1 色はみえるのかな)

皆さんは犬は色盲で、私達人間のように美しい色をみる事が出来ず、近眼なので、そのかわりに鼻や耳の働らきが人間のよりもうんと強いのだということをお聞きになったことがあると思います。さて、動物園で皆さんからライオンやゾウさん、キリンさんは色がわかるのですか、鳥さんはどうですか、と聞かれますと「ウン」とお答えするのにつまってしまいます。

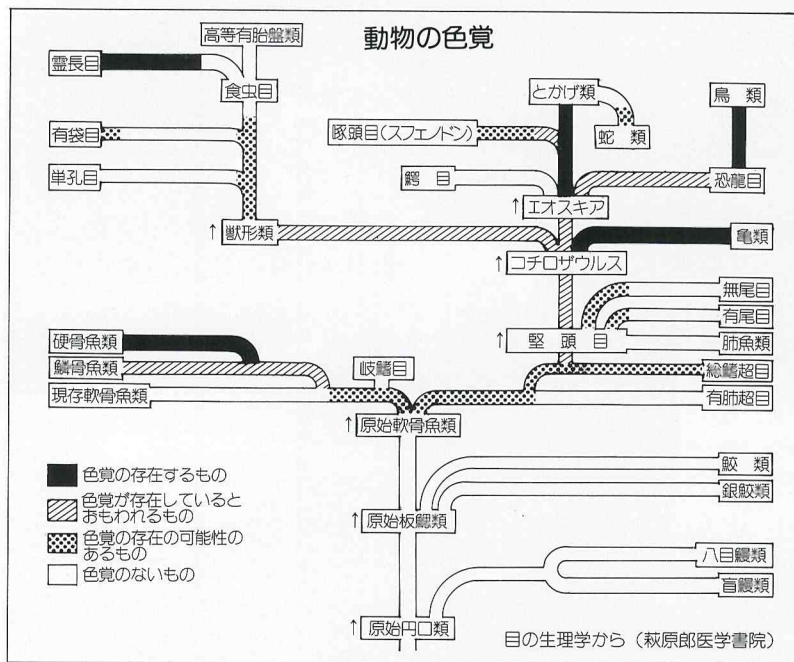
というのは、目の働らきや、鼻がきくとか、耳の聴く力がどうかは、それぞれの動物の生活するのに大変便利に作られているのです。たとえば生きた動物を狩って食物としている動物と、

話ししてみましょう。

まず、図を見て下さい。動物の進化の分類にしたがって現在までに研究された色がみえる動物です。魚では硬骨魚類(例えば、マス、コイフナ、タイ)。動物園でみられるものは霊長目(ゴリラ、チンパンジーなどのサル達)と呼ばれる人間に最も近いサル達と、^{カメ}亀類、トカゲ類と鳥類が色をみわけることができるのです。

私達人間と話しが出来ない動物達がどのように色をみているかを調べるのは大変むづかしいことです。少し学問的になりますが、眼球の内に網膜というものがあるということを知ってお

られますね、この網膜に光を感じる細胞(桿状体細胞)と色を感じる細胞(錐状体細胞)があります。(これは顕微鏡でみることができます)色を感じる細胞が多く網膜にあると、色がみえるものと考えられていますので、昔から多くの専門家が調べて来ました。この他に生理的にどうかも調べられ、錐状体細胞の先っぽには、化学物質(ロドプシン)があり、これに光があたりますと色に反応し、どういう色かを見わけているかもわかって来ました。



いつでも敵から逃げられるために用心している動物とか、草や木の実を食べている動物とか、によっても目の働らきもずいぶんちがったものとなっています。

今日は色を見分けられる動物はどれか、又色が見えるための目はどうなっているのか少しお

現在でも動物達がどのように色をみているかの研究が続けられていまして。キリンは色を見わけているという学者もありますので、これらも動物達がどのように色をみているのか、新しい発見もあるかも知れませんね。

(権藤 真慎)

動物の水あそび

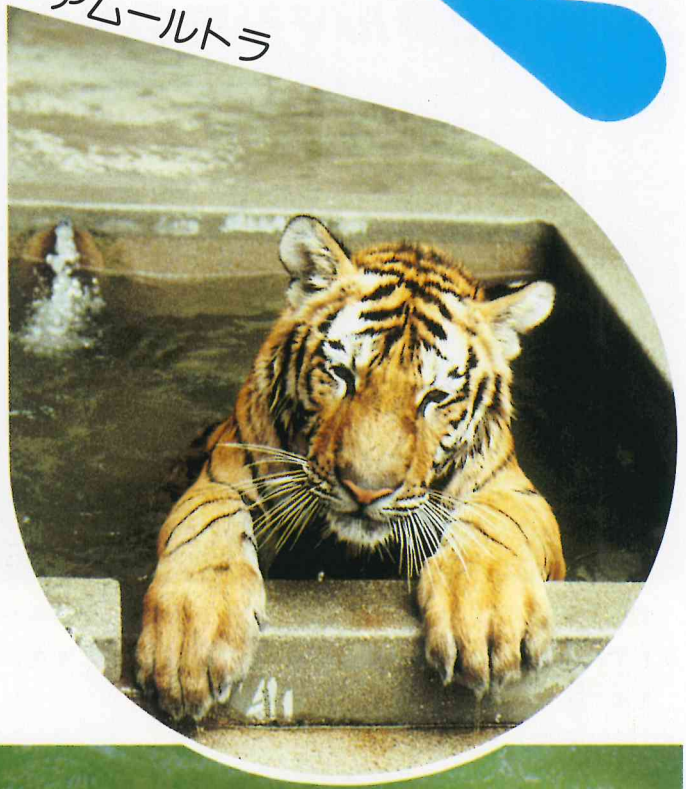


▲ インドゾウ

▼ ローランドゴリラ



▼ アムールトラ



▲ ホッキョクグマ (シロクマ)

(撮影 福田元二)

飼育うらばなし

◆見せたアルマジロの巣作り



背中にある帯状のすじが9本あるのでココノオビアルマジロと名づけられています。

中央アメリカから南アメリカに住むアルマジロ。ヨロイのような皮膚の硬いのにびっくりしました。抱きあげても歯があまりないので咬みませんが、するどい手足のツメが危険です。

野生では地下のミミズや昆虫、小動物などを前足の鋭いツメで掘りだし、食べているので、動物園では馬肉のミンチに卵や牛乳を混ぜてやります。憶病なのでエサを食べたあと、すぐどこかに隠れようとします。小さな土管なら入りこんでも大きな土管では姿が見えるので入らないことが分りました。それに土管よりも倒木風の丸太の下ばかりにもぐります。

なるほど自然の木や草がいいのです。そこで、干草や青草を入れてやれば、俄然彼等が生々と動き出したのです。次々入れた干草がすぐ倒木の附近に山積みされているのです。そして、アルマジロの姿が何処にも見えません。

なんと、積みあげた干草の下にみんなが身体を隠していました。

それにしてもあの干草をどう運ぶのだろうか、

興味がつきません。何とかしてあの大量の干草を運ぶアルマジロの姿を、この目で見たい。カメラに収めてやりたい。ほんとに根くらべの毎日となりました。

〔あ！後ろ向きに運んでるぞ！〕

とがった小さな口ではとてもワラや干草をくわえて運ぶことはできないだろう。

それでは鼻先でイノシシのように前へと押して運ぶのだろうか。

その謎はこの眼で見えるまでは解けませんでした。毎日、音をさせないよう長い時間待っていると、もう人の気配がなくなったと思ったのでしよう。

隠れていた一頭が、ゴソゴソと姿を現わしました。すると、新しく入れた干草に近づいたあと、早速干草を前足の爪で盛んにかき集めだしたのです。次にそれをどうするのか、と思えば、なんと、自分の胸から腹にかかえこむように体を丸め干草をいっぱい抱きかかえだしました。

なるほど彼等は硬いヨロイのような皮膚をもっているので天敵に襲われたら丸くなって危険から逃れる。つまり、その方法で干草を抱えているのです。

さて、そのあとが、また問題でありました。どなたも。いや私も干草をかかえたアルマジロは、そのまま前に進むのだらうと思っていました。

だが、そうではありませんでした。

「あ、うしろへ運びだした！」

干草をいっぱい抱いたそのままの姿で、後ろ向きに、スル、スル、スル、と器用に干草を落さぬように運びだしたのです。

目的地の丸太附近まで着くと次は、せっせと鼻で前へ押しつけ山盛りに積みあげているではありませんか。

他の三頭も協力すれば早いのにと思っけても、知らぬ顔、いや、もっと盛りあげて下さいな…」といわんばかり、どンドン積みあげてくれる干草の下に顔を隠して満足そうでした。

何度も何度も往復して、もう干草を運び終え、何もなくなったところで、運んでいた一頭も、やはり、スルスルと身体をもぐりこませ、みんなといっしょにもぐりこんでしまったのです。

もちろん後ろ向きのアルマジロ「巣作り行動」を激写したことというまでもありません。

さて、その巣を運んだ一頭は果してオスカメスなのか、抱きあげて性別を見たら、巣作りから卵を抱き、雛を育てるツルやコウノトリと同様オスだろうと思えばメスであったのです。

(亀井 一成)

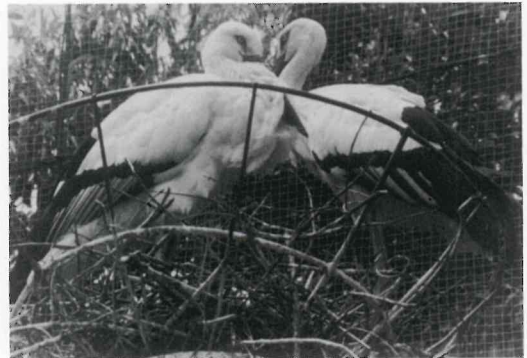
◆コウノトリの営巣

昭和59年2月15日、人工くちばしのゴウノトリが、2年4カ月ぶりにフライングケージにもどってきました。長い別居生活だったが、夫婦の絆を絶つことのできない、求愛のクラッタリングや、小枝、枯葉をくわえて、繁殖準備の行動を始めたのは、3月中旬頃です。さっそく、巢材(桜、アカシヤの小枝など)を搬入したところ、雄が高さ8メートルの巢台に、運び込むようになりましたが、雌は知らぬふりで、手伝う様子が全く見られません。人工くちばしのハンディも苦にせず、せっせと巢材を運び続ける雄が、突然営巣を中止して、動作も少なく、好物のどじょうも食べなくなりました。気になっ

た私は、注意深く観察を続けるうち、合成樹脂で作られた人工くちばしの接合部が、ゆるんでいるのに気づき、早急に取り換えることになりました。捕獲のショックで、営巣の中止を心配しましたが、翌日からは、新しくなったくちばしで、巢材運びが急ピッチで進み、愛の巣も完成間近になりました。その頃(4月21日)には、雌の巢材運びや、巢台でのクラッタリングなど、仲睦まじくなってきました。

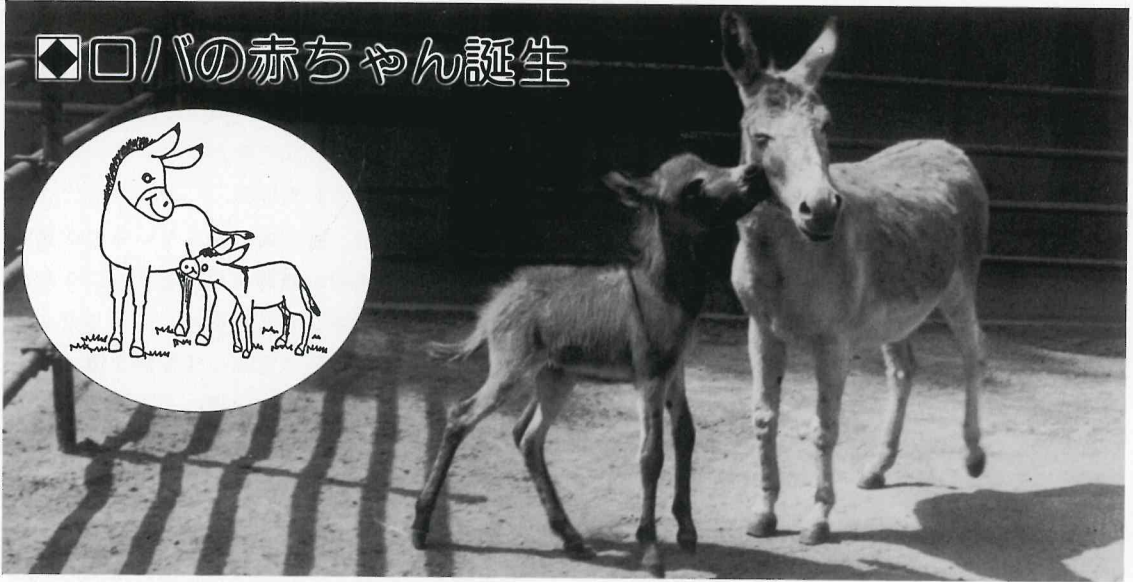
4月23日の朝、雄が巣に座っているのが見られ、いよいよ産卵の期待がもてるようになりました。そこで、巣と同じ高さに、テレビカメラを設置し、ケージ裏の倉庫に受像機を置いて、24時間監視体制にはいる一方、「入園者にも、コウノトリの営巣の様子をまじかに見てもらう」と、ケージ前にも、同じ映像が映る、別の小型受像機を据え付けました。5月になり、雌の就巣や、巢台での交尾など、産卵も間近に思えました。今日か、明日か、受像機のスイッチを力強くいれるが、卵は確認できません。巢材(稲ワラ、干草)の補充をしたり、好物のどじょうを増量して、産卵意欲をかきたてたが、反応はなかった。別のケージに飼っているヨーロッパコウノトリは、すでにフ化しており、時期的には遅いかも知れませんが、最初の産卵に失敗した場合、鳥類は、補充卵を産むため、6月下旬まで期待していましたが、6月25日頃には巢材を落としてしたりして巢台に未練がなくなったようです。来年は可能性が大きいと熱い期待をもっており、春には、親子の映像が見れるように頑張りたいと思っております。

(安福 守)



動物育児日記

◆ロバの赤ちゃん誕生



5月6日にロバの赤ちゃんが、生まれました。
57年、58年に次ぐ3頭目の赤ちゃんです。

今までの2頭は、男の子だったので、今度こそは、女の子だったらいいなと思っていたのですが、今回も男の子でした。

ロバの妊娠期間は、約330日です。

体重約13kg、体長約44cm位です。(動物の体長は、けんこう骨からお尻の所までをはかります。)

母親の体重が約100kgですから、なんと親の体重の約13%の子供を生むのです。

人間におきかえると、体重50kgの母親が6.5kgの子供を生むということで、人間に比べてたいへん大きな子供を生むといえます。

これは、ロバのような草食獣は、いつ肉食獣に襲われるかわからないので、生まれたその日から、親といっしょに行動できるだけの能力が備わっていなければならないからです。

さて、動物園では、動物の子供が生まれると、今後のためのデーターとして、体重や、体長を、測定します。

そのためには、私たち飼育係が、母親からむりやり子供をひき離さないといけないわけですが、その時の母親は、子供がいない時と、比べ

ものにならないくらい、神経質になって、同居しているロバでさえ、子供に近づくと、あわてて、子供との間に割ってはいり、後足でけりつけてくるほどですから、体重、体長などの測定は、たいへんな作業です。

まず、数人の飼育係が、ロバの運動場にはいり、母親からの攻撃をふせぐため、エサ箱を盾がわりにして、母親と子供の間を割ってはいり、一人の飼育係が、すばやく子供をつかまえて、運動場の外に出ます。

つかまえられた子供は、母親のもとへ帰ろうとしてあばれまわります。

そのため飼育係がしっかりだいて、一緒に体重計にのり、あとで、飼育係の体重をひくと子供のロバの体重がわかります。

子供を測定している時の母親は、心配そうに、さくの所まで来て、その様子をじっとみつめています。

ふだんおとなしいロバも、子供を守るためには、すごい力を発揮します。

この子供も、こんなに強い母親の愛情に包まれて、すくすく成長していくことでしょう。

(藤井 頼久)



◆フラミンゴのヒナ、ぞくぞく誕生

今年もフラミンゴのヒナが、ぞくぞくと誕生しました。昨年は当園において初めての自然ふ化によるヒナが3羽成長しましたが、19個も産卵しており、本年も多くの産卵が、期待されたので、営巣地をふやして産卵にそなえました。4月に入ると、早速営巣行動が見られ、4月5日には最初の産卵が有り、その後、次々と産卵し、47個（7月上旬現在）にもなりました。巣は、土を盛り上げて作りますが、直径が30cm～40cm高さも約40cmで、中央が少しくぼんでおりその上に白色の卵を1個産みます。フラミンゴは、巣も変わっていますが、卵も他の鳥とは変わっており、卵の表面は光沢もなく、白い粉をまぶした様にざらざらしており、卵黄も赤味を帯びています。抱卵は、雌雄交代で28日～29日間あたためますが、抱卵中は、雌雄どちらかが巣にいるか、採食の為、巣を離れても短時間に戻らないと、他のカップルに巣をうばわれ、卵も巣から落とされてしまうので、飼育員としては給餌の時は、フラミンゴが、それぞれ自分の巣に、戻るまで見とどけなければなりません。ヒナは生まれた時、うすいグレーの綿羽につつまれ、嘴と足はピンク色をしています。餌は、親から口うつし

でもらいますが、この餌がフラミンゴ特製で、喙のうから、分泌される赤い液体です。生まれて1週間から10日位まで親と一緒におりますがこの頃になると、足も強くなり、嘴と足の色も黒くなり初め、巣から離れて親と一緒に他の群と行動をします。最初は、親がたえず監視し守っています。その後ヒナの行動範囲も広くなり、ヒナばかり集まる様になります。さしずめフラミンゴの、保育園の様です。親は育児に大変熱心で、特にベニイロフラミンゴの雄は、あざやかな朱色の美しい羽色も、あせてしまい白くなってしまいます。こうして親の愛を一身に受けてすすくと育って、1ヶ月も過ぎれば丸々と太っていきぬいぐるみのよう。この頃には嘴も曲り初め、フラミンゴのヒナらしくなってきますが、羽色は、白っぽい灰色で、親と同じ様に美しく変身するのに、2～3年かかります。本年は、13羽（7月5日現在）もふ化し、にぎやかになって皆さんの目を楽しませています。全羽順調に育ってくれば、これから毎年ふえつづけ、数年後には、フラミンゴ池いっぱいになり、うれしい悲鳴を上げる事になるでしょう。

（吉竹 渡）

— 動物 ^{なぜ} ^{なぜ} 問答 —

◆アシカの赤ちゃんは泳げないというのはほんとうですか。

はい、ほんとうに生まれたばかりの子は泳ぐことができないのです。毎年6月10日前後、きまったようにアシカの出産があります。(季節繁殖 妊娠期間11ヵ月)

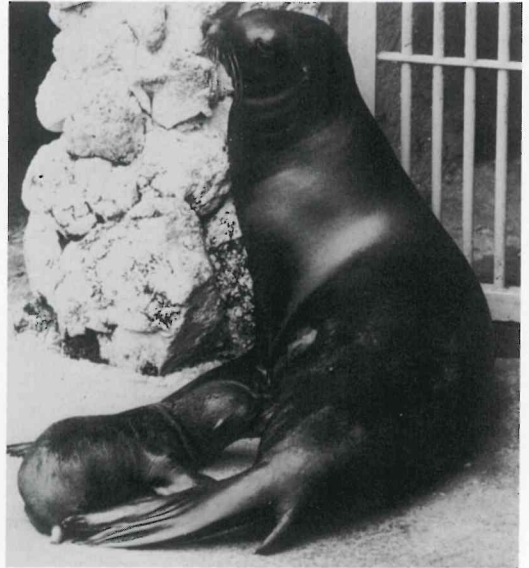
あれだけ泳ぐアシカの母親が陸上に上ったままエサも食べなくなったらいよいよ出産です。できるだけプールから奥まった岩穴の中で子を生んでいるのも、子があやまってプールに落ちないようにしているのです。

子の泣き声で生まれていることが分かってはなかなか外にでてきません。やっと親子が姿を見せるのは生後3日目頃で、子はまだ歩くのにもヒレのようになった手足をつかうのがやっと。ほんとにヨチヨチ歩きです。

お腹に小さな乳首がポツンと4つありますが、よく見ないと分かりません。母親は飲みやすいように時々寝返りしては、左右の乳を飲ませていますが、子が少しでもプールに近づくと大きな体で落ちないようにかばっています。生後5～6日目までが一番危険です。母親がエサのためプールにとびこんだあとを追っています。「あ！プールに落ちた！」、やはりアシカの子は水に浮いても、ゆるやかにヒレをつかうことができず、激しくばたつだけです。泳げないのです。しかし、子が落ちると同時に他のメス親も助けにきました。鼻で突きあげようとするもの、それでもだめとみた母親は突然子を口でくわえると、ものすごいしぶきをあげながら陸にとびあがりました。このように親たちに助けてもらいながら、うまく泳ぎだすまでに約2週間はかかっています。

今年6月14日生まれの子も生後2週間目に、初めてプールに落ち、助ける親たちを見て胸が熱くなりました。

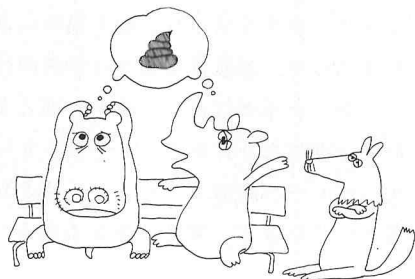
(亀井 一成)



◆なんでウンコくさいねん

シロサイ「なあ、わしのことくさいくさい、ゆうてお客さんが逃げてゆくんやで。」 カバ「そら、いつのことや？」 シロサイ「いつもや、それもウンコする時。」 カバ「ああ、それやったらわしらも言われるわ。」 シロサイ「な、そやろおかしいやろ。」 オオカミ「みんないっしょよ。わたしたち動物はね、ウンコやシッコの臭いにもものすごく大切な役目があるでしょ。たとえば、なわばりのしるしとか……。」 カバ「イタチなんか身を守るために使っとるなあ。」 シロサイ「ウンコやシッコがくさいないと野生では生きてけへんもんね。」 カバ「人間のウンコはくさいんやろか。」 オオカミ「それはくさいわよ。でもその臭いはあまり役立っていないようね。」 シロサイ「それでも生きてけるんや。」 カバ「そやから言うてわしらのことくさいくさい言うの勝手やと思うわ。」

(村田 浩一)



トピックス (59年2月～6月)

◆「どうぶつ君、ただいま食事中」展開く

3月15日から20日までさんちかインフォメーションギャラリーで動物の食べ物に関する展示や王子動物園独自製作のビデオを放映し、好評を得ました。

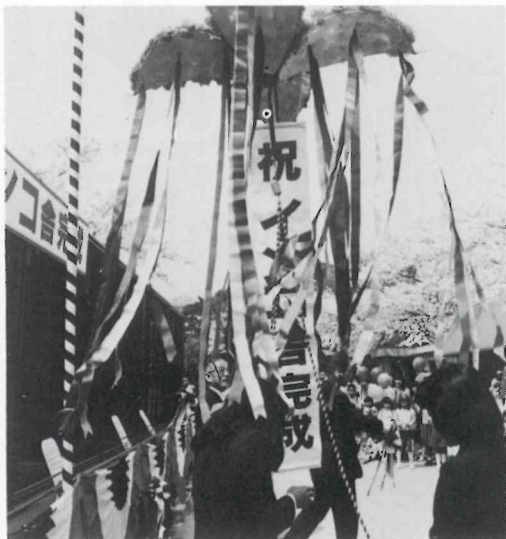


◆ベビーラッシュ

今年も3月から6月にかけて、カラカル、ヒョウ、ロバ、フラミンゴ、シュバシコウ、ペンギンなど9種20数点のベビーが生まれ、にぎやかになり、特に、フラミンゴは6月5日まで13羽がかえり、入園者の人気者になっています。

◆新しい「インコ舎」完成

かねてから工事を進めていたインコ舎が完成し、4月15日に完成式を行いました。このインコ舎にはスマレコンゴウなど17種のインコとオオオオハシなど熱帯鳥類5種を飼育展示しています。



◆動物を計る会開く

計量記念日の恒例行事として、当園と神戸市計量検査所の共催で、6月3日にキリンの「キリ子」の体重と身長を計りました。結果は体重が980kg、身長4.43mで3,000人余の応募者があり、正解者は体重で8人、身長が2人でした。



(谷岡 正之)

版画で見る王子動物園 (その2)



旧ハンター邸とシロサイ

国画会・日本版画協会会員で神戸出身の著名な版画家・川西祐三郎先生にお願いして、王子動物園を版画で描いて頂きました。園内売店で5枚セットにして販売しています。

編集後記

はばたき16号をお届けします。この春は、昨年に引き続き、ペビーラッシュで、フラミンゴのヒナが13羽もかえった他、カラカルやシュバシコウ、タンチョウ、ヒョウなどの赤ちゃんたちも誕生しました。又、施設面では熱帯の鳥たちを加えた新しいインコ舎が完成し、トイレも新築されました。これからも、ますます愛される動物園づくりに、がんばろうと関係者一同はりきっています。(編集室)



学生のオリンピック
1985年ユニバーシアード
神戸大会
昭和60年8月24日～9月4日

はばたき 第16号

昭和59年7月20日 発行

編集：神戸市立王子動物園

発行：神戸王子動物園協会

神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社

1部 100円

84071500